

令和4年度第2回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

1 開催日時 令和4年11月18日（金） 午前10時00分開会

2 開催場所 郷土博物館 研修室

3 出席委員

委員長	伊藤 誠	委員	加藤 みどり
副委員長	武田 弘	委員	岩崎 照代
委員	高橋 佳代子	委員	唐木 義昭
委員	友田 賢司		

(欠席委員)

委員	瀧澤 真	委員	篠原 美智代
委員	菊池 眞太郎		

4 出席職員

教育長	御園 朋夫	館長	西原 崇浩
生涯学習課長	高浦 正充	主幹	桐村 久美子
顧問	井口 崇		

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

6 議題

- (1) 『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく35の展望－』の運用に伴う郷土博物館の使命等の見直しについて
- (2) 今後の博物館事業の展望について
- (3) その他

8 議事

伊藤委員長 では、議題（１）『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく35の展望－』の運用に伴う郷土博物館の使命等の見直しについて、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 資料に基づき説明

伊藤委員長 議題（１）について何か質問ありませんか。

唐木委員 開館40周年を迎えまして、過去の総括となると思いますが、鴨川市郷土資料館も40周年ということで、どんな展示をやっているのか見てきました。あちらでは、過去の展示を振り返る展示をしていました。袖ヶ浦市では、富士山というテーマを選んで、どちらかという攻めの展示です。攻めと守りとはどちらがいいかはわかりませんが、袖ヶ浦の方が攻めということではないのかなと思います。ただ、鴨川市は過去の展示のリストを作っており、誰でも持ち帰れるようになっている。当館でも40周年ということで、過去の展示リスト等を市民の皆さんに伝える、博物館自身も自ら伝えるということが必要なのではないかと思います。

事務局 ご指摘ありがとうございます。今回の企画展でも鴨川市郷土資料館にはお世話になっておりますので、展示は拝見いたしました。40年間にされた展示のいいとこどりで、たくさんの資料が並んでおり、大変見ごたえがありました。担当の学芸員とも話をしたところ、鴨川の40年を展示で見せるという熱い思いで取り組んでいるのがわかり、私たちも大変参考になりました。

当館も実は現在の展示に合わせて、ロビーの方でこれまでの展示のポスター展を考えていたのですが、ご覧のとおり市民学芸員の展示がロビーまで使いたいということになりましたので、お譲りしました。

現在の企画展終了後に、40年全部のポスターと言うわけにはいきませんが、ロビーで一度ポスター展を開催したいと考えます。その際には40年間

の企画展・特別展がわかる配布物も作りたいと思います。大変参考になる貴重なご意見をありがとうございました。

西原館長 補足ですけれど、40周年の記念の要覧という、過去の振り返りの冊子を作っております。過去10年間の企画展・特別展をまとめたもので、それ以前につきましては、30周年にも同じようなものを作っております。それと合わせて確認できるように作っております。展示資料についてもそれで補えればと思います。また、それですと一部の人にしか見られませんので、ホームページ等で公開するなどして、過去の振り返りについては誰でも振り返られるようにしたいと考えております。

伊藤委員長 他にありませんか。

では、私から。5ページの使命説明文の修正文ですが、この文章が長すぎて、一番何が言いたいのかというのがぶれるのではないかと。1つの文章が長すぎて、もう少し文章を区切って入れた方がわかりやすいのではないかと思います。

事務局 今、ご指摘いただきました件ですが、もう一度この文章につきましては再考いたしまして、また皆様にお示ししたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

西原館長 可能な限りわかりやすい文章に修正を試みてみますので、本日の会議録と合わせて再提議させていただいて、それに対してご意見があるようでしたら、またいただいて修正するといった手法で、させていただきたいと思っております。特にご意見がないようでしたらそれを採用させていただくという流れでもよろしいでしょうか。

伊藤委員長 皆さんから何か質問、意見ありましたらお願いします。よろしいですか。では、続いてお願いします。議題(2)今後の博物館事業の展望について。

事務局 資料に基づき説明

伊藤委員長 議題（２）について何か質問ありませんか。

唐木委員 袖ヶ浦学に見直しが必要ですね。先日も袖ヶ浦学について見直しが必要ですね。私も参加したのですが、結構たくさんの方が参加されていて、最後の質問タイムでは情報交換のようになっていましたね。あれがすごく印象に残って、いいなと思ったのですが、袖ヶ浦学だから袖ヶ浦のことをやるのは当然なのですが、あまり袖ヶ浦にこだわらずに市民の皆さんが聞きたいとか知りたいとか、そういったニーズに対しての勉強会、そんな位置づけであってもいいのではないかと。もちろん、職員の皆さんの研究発表の場というのにも必要ですが、今年は源頼朝が、大河ドラマの関係でクローズアップされていますけれど、その年によって皆さんの興味が変わってくる。そういうことで、市民のみなさんが勉強したい、知りたいというテーマがあったら取り上げる、そのような位置づけでもいいと思います。

2つ目ですが、山野貝塚。以前にも博物館のアピールポイントということで話したことがあるのですが、身近な所では例えば千葉・大多喜・久留里・館山等は、城が博物館を伴っている。そういう所では、城と大名等をアピールしていると思います。さっきも話にあった鴨川は波の伊八が生誕地ということもあって、市内にもいろいろ作品が残り、波の伊八がアピールポイントになっています。御宿は過去にメキシコの船が難破して、乗組員を住民たちが救ったということから、そこと姉妹都市を提携している。当館については、歴史的な分野では、アピール点は弱い。当館は山野貝塚の中核施設として、私は山野貝塚の会議にも参加しているのですが、山野貝塚自体がアピール的に低いということで、博物館とか公園とか、そういう周辺施設として総合的にアピールしませんかということをお話したところですが、これもぜひ、山野貝塚の周辺と博物館ということで合わせて、これからさらに力を入れてやっていただければと思いました。山野貝塚の周辺を記載したマップがありますよね。こういうものを山野貝塚の周辺ということで、博物館と合わせてやっ

ていただきたい。

これも鴨川の例なのですけれども、8コースくらい各地区の散策路を博物館のホームページで公開しています。袖ヶ浦も山野貝塚だけでなく、皆さんに見ていただきたい散策路がたくさんあります。そういったものを作成して、市民にアピールしてはどうか。山野貝塚の計画が立ち上がってくる、それに合わせて市の散策コースも合わせてアピールしていただきたい。それを当館の1つのアピールポイントとしてやっていただきたい。以上です。

事務局

袖ヶ浦学について大変参考になるご意見をありがとうございました。ご意見にありましたようなニーズも確かにございます。今年は源頼朝関係と富士山、どちらも多くの方にご参加いただいておりますので、そういった大きなテーマでの講座も今後も継続していきたいと思っております。合わせて、袖ヶ浦学としてではなく、若手職員等を講師として話す方ももう少し気軽にできる講座、仮称ですが「そではく学芸会」とか、講座の参加者も15人とかな目に設定し、この研修室でできる範囲で、博物館や生涯学習課の若手職員等に勉強の場・経験を積む場として使えるような講座を考えております。袖ヶ浦学については、そういった面も取り入れながら、これまで続けてきました企画展等に絡めた大きなテーマの講座もしっかりと続けていきたいと思っております。

山野貝塚については先日、生涯学習課とも打合せがありまして、17ページのA3の表では少し触れているのですが、令和9年に開館45周年を迎えるわけですが、この年がちょうど山野貝塚の国指定の10周年記念になりますので、その記念企画展を考えております。現時点では表の方では並列した書き方をしておりますが、山野貝塚国指定10周年記念展を博物館開館45周年記念展として行う場合もあります。今博物館の方で、山野貝塚のことでできることの1つに、唐木委員のお話にもあった「行ってみようマップ」を使った散策会が挙げられます。この「行ってみようマップ」は今年度改訂版を発行予定ですので、また周辺散策に使ってもらえればと考えております。

山野貝塚については、生涯学習課の方でもボランティアを育成しております。そちらを博物館事業や博物館の市民学芸員とも協働する形でやっていけないかというのも、先日の打合せでも話がありましたので、今後山野貝塚

については博物館の方でももう少し積極的に取り組んでいきたいと思ひます。

唐木委員 市民も自分の市にはどういふ所があるのか知りたいと思ひます。そういうものを袖ヶ浦学で話してもらふのも1つの方法なのかなと思ひます。

事務局 そうですね。袖ヶ浦学でまた「行ってみようマップ」等を使った見学会をやってみるのもいいと思ひます。

西原館長 袖ヶ浦学ですけれど、前回は164回、平成11年から続いている講座で、当初は袖ヶ浦、地域のことをより深く知ってもらふという趣旨で、井口顧問が始めた事業になりますけれど、今お話にあったように、当初のスタンスと変わってきている感がある、この袖ヶ浦学をどうするか考えなければいけないかなというところですが、博物館だけが考えても仕方がないところもあるかと思ひますので、公民館も5館ありますのでそういった所と連携をとりながら考えていきたいと思ひます。今中央図書館と展示の関係で連携をとっておりまして、講座とは関係がないのですが、博物館で富士山の展示をやった場合、図書館でも関連展示をやってもらうというように行っています。そのように、袖ヶ浦が求められるものを、私たちだけが考えるのではなく他の公民館や他の施設のご意見も取り入れながら、よりよい姿というのを考えた方がいいかなと思ひます。

先ほどのマップは、根形地区・飯富を中心に作っていますので、機会があれば、予算を伴うものではありませんが、横田の方では横田郷という室町時代の景観が今でも復元できる、歩いてみるとわかるという場所がありまして、そういった場所のマップを作るのも1つの手段だと思ひますし、博物館の使命だと思ひます。各地域にいろいろなものがありますので、そういったものもまた検討できればと、いただいたご意見から思ひました。

高橋委員 15ページの(5)市民学芸員協働事業ですが、人間やはり一人一人の人間関係の中で、いろんなエネルギーを持っている人たちがたくさんいるので、新しい人が入ってきているというのは先が明るいと思ひました。人間関係の

中からまた新しい考え方が見えてくると思うんです。ですから、人の流れとともに新しい風を吹き込むという意味では、市民学芸員には明るい光を感じました。博物館だけでなく、団体すべてに言えることですが、長い人間関係が続くと見えるものも見えなくなってくるようなことが往々にしてあるので、ものすごく期待しています。

事務局 ありがとうございます。

伊藤委員長 14ページの「アクアラインなるほど館の新たな活用方法を検討していく必要がある」ですが、新たな活用方法の検討は必要があるのですか。

事務局 資料では簡単にしか触れていないのですが、アクアラインなるほど館は現在、要望があった場合だけ開館し、展示内容についてはこれまでのまを見せしております。展示施設として中途半端な形でお見せしている、これでよいのかというのはあるかと思います。例えばですが、山野貝塚の方でもボランティアの居場所が必要かもしれませんし、ガイダンス施設として考えた場合、博物館本館の中に入らなくても、なるほど館のロビー等でちょっと簡単に見るといった形を考えてもいいのかなというのも1つありますし、昨年度アクアラインなるほど館の活用ということで、博物館協議会でも検討していただきましたが、案としては、袖ヶ浦というのは元々海の産業が盛んだったはずなのですが、そういった民具とか歴史について展示する場所が今はなくなっているんで、なるほど館を海つながりで活用していくというのも案としてあったかと思います。まだこれについては方向性を決めるところまで進んでないわけですけど、今まで出ました案も含めまして新たな活用方法を検討し、せつかくある施設ですのでもっと活用していけたらいいのではないかと考えております。

伊藤委員長 なるほど館で今までソデフローラとかいろいろな展示をしていましたが、最近では本館でやっていましたよね。そのあたり、なるほど館でも今後いろいろなことをやろうということですね。

加藤委員 ソデフローラですが、葉月の会今年で10周年なのですけれど、今なるほど館は受付の職員がいないので、展示したら会員の誰かがいないといけないということで、その期間だけ職員を置いていただくとか、そういう方策がでなかったもので、今回の10周年はまたロビーでやるのですけれど、換気とかコロナのこととかいろいろなことがあると思うので、その辺は博物館だけで解決できないのではないかと考えています。職員の関係・建物の関係、なるほど館で以前のように展示するにはかなりの予算がかかると思うので、今回は難しいと判断しました。

唐木委員 あそこは魅力的ですよ。なるほど館を山野貝塚の専用のスペースにすることで、山野貝塚をかなりバックアップできると思います。改築にはお金がかかると思いますが、ここで特別館を設けた方が、山野貝塚をアピールする上では非常に重要なのかなという気がします。

事務局 今、加藤委員からお話があったとおり、ソデフローラは本当でしたらなるほど館のロビーを使いたかったということですが、現在受付職員の予算がないので、もし葉月の会が当番で受付を置いていただけるようでしたら使ってくださいというお話だったのですが、それは難しいということで、今回も本館ロビーでとなりました。そういった経緯になっております。なるほど館の活用についてはどうしても受付職員の予算ですとか、改修となればそういった予算も必要になってきますので、加藤委員のおっしゃるとおり博物館だけでは解決できない面があります。ただ、博物館でもこうやって使いたいという案、方向性は持っていないといけないことだと思いますので、唐木委員からもお話のありました山野貝塚の特別館、そういったものも案の1つとして今後も考えていきたいと思っておりますし、やはり山野貝塚も含めてですが、今の常設展示ですと袖ヶ浦と海をつなぐものなるほど館だけだったので、そういった点も含めて活用を考えていきたいと思っております。

伊藤委員長 15ページの最後にある中高生の「そではく部」だとか、14ページには

中学生を主体とした山野貝塚学習プログラム、そうやっているいろいろ広げていけば、将来的にはいろいろな人が参加できるのではないかなと、そう思いましたので、よろしくをお願いします。

上総掘りは、袖ヶ浦高校はまだ参加しているのでしょうか。

西原館長 現在、2名の生徒が参加しています。

伊藤委員長 他にはよろしいでしょうか。

では、(3) その他ということで、何かありますか。

事務局 本日お配りしました「第38回袖ヶ浦市生涯学習推進大会実行委員の推薦について」をご覧ください。こちらは生涯学習推進大会の実行委員1名を博物館協議会の委員として選出してほしいというもので、本来であればこの会議で諮り、人選を行うべきものでございますが、推薦書の提出締切が11月4日であり会議後では間に合わないため、委員長と相談し、岩崎委員にお引き受けいただきましたので、ご報告いたします。

西原館長 続きまして、お手元の方にミュージアム・フェスティバルのチラシがあると思います。例年ですと6月の第1土曜日・日曜日に実施していたのですが、コロナの関係で11月26・27日の土日に実施することになりました。昨年度は体験会ということで、規模縮小して1日だけ開催して終わりにしましたが、今回は本格的にやろうということで、ミュージアム・フェスティバルとしては3年ぶりの実施になります。内容はこれまでと大きく変わらないのですが、コースター作り、これは友の会機織りの会が担当ですが、こちらと土器作りを事前申し込みとして、現在募集しているところです。土器作りは友の会の土器作りサークルが担当です。袖ヶ浦高校の吹奏楽部には、初日にオープニングセレモニーとミュージアムコンサートに出演していただきます。凧の会によるミニ袖凧作りも今回も行いますので、よろしく願いいたします。そのような形で今回も実施したいと思います。受付方法は昨年度も入場者管理を行いました、フリーでは入らないという形でコロナ対策を実

施したいと思います。

続いて、博物館からのお知らせになるのですが、博物館の受付方法がこれまでコロナ対策というところで、来館者に緊急連絡先等をお伺いしていたのですけれども、11月3日からそれを解除いたしました。日本博物館協会という組織でコロナのガイドラインを作成しているのですが、そちらの方で入場者管理については緩和されるということになりましたので、当館でも入場者管理は緩和させていただきました。博物館で大騒ぎしたりは基本的にないことと、入館についてはマスクをしていただくというのが条件にはなります。

武田委員 フェスティバルの片づけは28日月曜日にやりますか。

西原館長 29日火曜日に行います。

伊藤委員長 他、いかがですか。

私、先日、国立歴史民俗博物館に行ってきたのですが、すごいですね、古代から現代まで全部で6部屋あって、回るのに2時間以上かかります。時間の都合で1時間で引き揚げてきたのですが。これはちょっと規模が大きすぎますが。入館の際の体温測定はなかったですね。消毒液がおいてあるだけでそのまま入れました。

西原館長 一時期はコロナ対策でインターネット予約とか取り入れてましたが、それはやめてしまいましたね。

伊藤委員長 多いときは1,000人くらいの入館があるそうです。

伊藤委員長 他にどなたかございますか。

高橋委員 文化協会も本当に2年間発表会も何もできなかったのですが、お配りしましたプログラムのとおり12月3日に舞踊会の発表があります。ぜひお越しください。

もう1点、教育長にお伺いしたいのですけれど、新しい庁舎の中で今教育委員会が入っているあたりに、市民ふれあいの広場というのができるというのを伺ったのですが、展示等でそのスペースが活用できるものなのか、ご存じでしたらお伺いしたい。以前博物館でも中島先生の展示がございましたね。そして次は辻元先生ということですが、美術展を開催するときに展示に関して不安や希望があるので、市役所にできるそのスペースはどのような活用ができるのかお聞きしたかったところです。

御園教育長 広いスペースができます。今の教育委員会のある建物は壊しますので、その部分にできるということです。憩いの場というか、皆さんが集まって活動できる広さにはなると思います。

高橋委員 展示のようなものも可能になるのでしょうか。

御園教育長 なると思います。喫茶店ではないですが軽く飲み物を飲める場所も設けて、憩いの場にはしたいというイメージもあるようです。今、一番高い7階建ての建物の改修工事をやっていますが、これが来年の6月頃に終わります。それが終わると議会棟にいる市民課等が移動します。移動したところで壊して、そこから新しいものが建つということですので、まだ2年くらいかかると思います。

高橋委員 どのような活用ができるのか期待しています。

伊藤委員長 まだ具体的にはなってないですからね。他、いかがですか。

西原館長 最後によろしいですか。この博物館協議会の関係ですが、令和3年の2月1日から皆様方をお願いしているところですが、1月31日をもちまして今期の任期が終了となります。期間内の定例的な会議については本日が最後となります。ありがとうございました。

伊藤委員長 その他よろしければ、閉会とします。
みなさん、貴重なご意見、ありがとうございました。

事務局 慎重審議ありがとうございました。令和4年度第2回袖ヶ浦市郷土博物館協議会、これにて閉会といたします。本日はありがとうございました。

閉会

令和4年度第2回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

会議次第

日 時 令和4年11月18日(金)
午前10時から11時20分
場 所 郷土博物館 研修室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 議 題

(1) 『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく35の展望－』の運用に伴う郷土博物館の使命等の見直しについて(20分)【質疑20分】

(2) 今後の博物館事業の展望について(15分)【質疑15分】

(3) その他

5 閉 会

第 2 0 期袖ヶ浦市郷土博物館協議会委員名簿

氏 名	選 出 区 分	備 考
たきざわ まこと 瀧澤 真	学校教育 蔵波小校長	新任
たかはし かよこ 高橋 佳代子	社会教育 文化協会	再任 5 期目
ともだ けんじ 友田 賢司	社会教育 子ども会育成会	1 期目
たけだ ひろし 武田 弘	社会教育 郷土博物館友の会	再任 5 期目
かとう みどり 加藤 みどり	社会教育 市民学芸員	再任 5 期目
いわさき てるよ 岩崎 照代	家庭教育 放課後子ども教室スタッフ	再任 5 期目
いとう まこと 伊藤 誠	学識経験者	再任 8 期目
きくち しんたろう 菊池 真太郎	学識経験者	再任 5 期目
しのはら みちよ 篠原 美智代	学識経験者	再任 4 期目
からき よしあき 唐木 義昭	学識経験者 公募委員	再任 2 期目

任 期 令和 3 年 2 月 1 日から令和 5 年 1 月 3 1 日まで

議題（１）『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく３５の展望－』の運用に伴う郷土博物館の使命等の見直しについて

1 提案理由

平成２０年６月に「博物館法」が改正され、同法第９条において運営状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため、必要な措置を講ずるよう努めなければならないことが定められた。さらに「公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準」においても、事業の状況を博物館協議会等の協力を得ながら、自ら点検・評価を行い、その結果を公表するように努めることが示された。袖ヶ浦市郷土博物館では、平成２４年７月に『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく３０の展望－』を策定し、博物館の４つの使命を遂行するための６つの分野の大きな活動目標を掲げ、今後博物館が目指す３０項目の「あるべき姿」を示すとともに、それを達成するための、アクションプランを示した。

その後１０年の成果を受け、開館４０周年の節目において、点検・評価内容を確認・修正し、『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく３５の展望－』を提示して、７つの活動目標と３５のあるべき姿について、令和４年第１回の博物館協議会において審議を進めた。

今回は、平成２４年度に示した４つの使命の修正とそではく３５の展望で新たに設定した７つの活動目標の内容について提示するものである。

2 郷土博物館の運営の評価について（見直しの経緯）

令和２年度 第２回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

- ・『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく３０の展望－』の見直しについて提案

令和３年度 第２回博物館協議会

- ・『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく３５の展望－』を提示
- ・見直し内容の検討・審議

令和４年度 第１回博物館協議会

- ・改正案『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく３５の展望－』による令和３年度の点検と評価の結果を提示（試行的運用・評価基準は従来どおり）
- ・本格的運用の審議（令和４年度事業の点検と評価）

第２回博物館協議会

- ・『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく３５の展望－』の運用に伴う郷土博物館の使命・活動目標詳細の見直し

令和５年度 新たな評価方法に基づいた本格的運用

- ・第１回博物館協議会審議

- ・教育委員会協議会報告
- ・ホームページ上で公表

3 『袖ヶ浦市郷土博物館の使命』

新たに提示した『袖ヶ浦市郷土博物館の使命ーそではく35の展望ー』における7つの活動目標と博物館が目指す35のあるべき姿と整合するよう、活動目標の補足説明文を修正しました。また、7つの活動目標と35のあるべき姿のほか、昨今の博物館を取り巻く動向などを踏まえ、4つの使命と説明文についても見直しを行い、さらに、「博物館の使命」を掲げるための基本的な目標と理念を示した、基本目標・基本理念についても同様に見直し・修正を行いました。

●活動目標

(修正前)

- (1)地域の資(史)料を守るー資(史)料の収集と保管ー
- (2)地域を探り、発信するー調査研究の深化と革新ー
- (3)学習・知的交流の拠点になるー展示更新と市民参画ー
- (4)地域のつながりを活かすー地域連携の展開ー
- (5)安心・安全な施設にするー改善と維持管理ー
- (6)袖博らしさを追求するーマネジメント力の強化ー

(修正後)

- (1)地域の資料を守るー資料の収集と保管ー
- (2)地域を探り、発信するー調査研究と成果活用ー
- (3)学習・知的交流の拠点になるー展示更新と情報発信ー
- (4)地域のつながりを活かすー市民参画と地域連携ー
- (5)安心・安全な施設にするー施設の維持管理と来館者への配慮ー
- (6)博物館の社会的役割を意識するー地域への貢献ー
- (7)博物館職員の個性を生かし、能力を伸ばすー自己研鑽と研修参加ー

●7つの活動目標の補足説明修正

- (1)地域の資料を守るー資料の収集と保管ー

(修正のポイント)

博物館外にある地域資料についても貴重な市の財産と認識し、これらの散逸・棄損を防ぎ保護するのも博物館の役割と強く意識するため、明記しました。

市史編さん事業で収集・管理してきた史料をはじめ、地域資料を継続的に収集整

理し、市民の共有財産として適正な環境で保存管理します。また、地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、資料の情報・収集にあたります。

(2) 地域を探り、発信する ―調査研究と成果活用―

(修正のポイント)

市民に地域資料の重要性を理解してもらうためには資料の持つ価値や歴史的な位置づけを明確にする必要があります。そのためには調査・研究が不可欠であり、またその成果を公開して市民との共通理解を図ることが重要であると考え、公開・活用に重点を置きました。

地域資料の調査研究を推進して、その価値や歴史的な位置づけを明らかにし、その研究成果を市民の知的財産として公開・活用します。

(3) 学習・知的交流の拠点になる―展示更新と情報発信―

(修正のポイント)

活動目標の市民参画を(3)から(4)に移動させ、情報発信を追加したことによる修正が主となりますが、学習・知的交流の拠点として必要不可欠である情報発信・情報提供機能の充実について掲げ、企画展・特別展については地域資料活用的一端であるという点を強調しています。

地域資料を有効に活用した企画展や特別展を計画的に開催するとともに、市民のニーズを考慮した常設展示の更新計画を推進し、利用者の多様な学習意欲に応えます。また、地域の学習・知的交流の拠点として、さまざまな情報を発信するとともに、調べ学習や個人研究等の質問・相談に対応できる体制を整えます。

(4) 地域のつながりを活かす―市民参画と地域連携―

(修正のポイント)

活動目標の市民参画を(3)から(4)に移動させたことによる修正が主となりますが、地域連携の中心に、博物館にとっての市民の代表である市民学芸員・友の会員を位置づけることで、博物館の目指す市民参画のあり方をより明確にしました。

市民学芸員・友の会員を中心に、市民が博物館活動に参画しやすい体制を構築し、学びの拠点として地域とつながる博物館を目指します。また、地域の学校と連携し、各種学習プログラムを開発して子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流を促進します。他の社会教育機関・博物館等や地域の企業、NPO等との交

流・連携をより強化し、地域連携による新たな価値や経済効果を発見・創造します。

(5) 安心・安全な施設にする－施設の維持管理と来館者への配慮－

(修正のポイント)

これまで記載されていなかった危機管理と防災訓練について明記しました。

市民の快適な学習環境を整えるために定期的に施設の安全点検を行って施設の現状を把握し、メンテナンス・修繕・改修等の計画を立てて維持管理をはかるとともに、安心・安全で誰にも優しい施設をめざします。また、災害・事故に備え、博物館独自の危機管理マニュアルを整備し、定期的に防災訓練を行います。

(6) 博物館の社会的役割を意識する－地域への貢献－

(修正のポイント)

活動目標を大きく変更したことにより、博物館が求められている役割を果たし、地域に貢献するためにできることを明記しました。

常に博物館として地域から求められる役割を意識し、周辺の施設や大学・研究機関等と連携して、立地を生かした魅力的な事業展開を図ります。周辺の遺跡や歴史文化遺産の把握や解明のため、調査等ができるボランティアを育成し、市民と一体となった博物館活動を推進します。また、博物館の持つ収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献できるよう努めます。

(7) 博物館職員の個性を生かし、能力を伸ばす－自己研鑽と研修参加－

(追加のポイント)

魅力ある博物館事業を市民に提供し続けていくためには、博物館職員が最新の情報を的確に捉え、自己研鑽に励むことが重要であると考え、追加しました。

魅力ある博物館活動推進に向けて、最新の情報を入手し、各自の専門性をより高めるため、職員が研修に参加できる環境を整えると同時に、他機関の学芸員・研究者との交流や研究成果の収集に努め、博物館の業務に還元します。

●使命

(変更前)

(1) 地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

(2) 市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上につくします。

(3)市民の生涯学習拠点としての安心・安全な施設を提供します。

(4)博物館としての独自性を追求します。

(変更後)

(1)地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

(2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上につくします。

(3)市民の生涯学習拠点としての安心・安全な施設を提供します。

(4)博物館の社会的役割を意識し、地域に貢献します。

●使命説明文

(修正のポイント)

7つの活動目標と35のあるべき姿のほか、昨今の博物館を取り巻く動向などを踏まえ修正しました。

袖博は、地域の資料を収集整理し、市民の共有財産として次世代に継承するとともに、調査研究に基づいた常設展示の更新及び企画展・特別展を、市民のニーズも考慮しながら計画的に行います。また、地域の学習・知的交流の拠点として、さまざまな情報を発信するとともに、市民が博物館活動に参画しやすい体制を構築し、市民活動と一体となった博物館活動を推進して、地域に貢献します。さらに、生涯学習の拠点としての快適な学習環境を整えるため、施設の現状を的確に把握して維持管理をはかるとともに、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、以上の4点項目を使命とします。

●基本目標ーひと・みらい・つながる博物館ー

(修正のポイント)

7つの活動目標と35のあるべき姿のほか、昨今の博物館を取り巻く動向などを踏まえ修正しました。

袖博は設立当初から資料収集・保管・調査研究・展示公開・教育普及・情報公開などを着実に進めてきました。また、博物館を取り巻く社会情勢をいち早く捉え、学校教育・地域連携・市民活動の活性化と支援を行い、多くの有識者や市民の意見をもって、「市民とともに歩む」博物館を実践してきました。さらに、博物館の社会的存在理由や社会貢献を明確にするための基本理念を基に「使命」を示し、博物館が「使命」を遂行するための7つの取り組みである活動目標を展開します。

●基本理念ー市民と共に歩み、地域の発展に貢献し、愛される博物館ー

(修正のポイント)

7つの活動目標と35のあるべき姿のほか、昨今の博物館を取り巻く動向などを踏まえ修正しました。

袖博が市民活動の場となり、より一層「市民と共に」あり、「市民から必要とされる博物館」でなければならないことを認識するために、地域博物館としての戦略を精査し、社会貢献に取り組みます。

『袖ヶ浦市郷土博物館の使命』(案)

【基本目標】一ひと・みらい・つながる博物館一

袖博は設立当初から資料収集・保管・調査研究・展示公開・教育普及・情報公開などを着実に進めてきました。また、博物館を取り巻く社会情勢をいち早く捉え、学校教育・地域連携・市民活動の活性化と支援を行い、多くの有識者や市民の意見をもって、「市民とともに歩む」博物館を実践してきました。さらに、博物館の社会的存在理由や社会貢献を明確にするための基本理念を基に「使命」を示し、博物館が「使命」を遂行するための7つの取り組みである活動目標を展開します。

【基本理念】一市民と共に歩み、地域の発展に貢献し、愛される博物館一

袖博が市民活動の場となり、より一層「市民と共に」あり、「市民から必要とされる博物館」でなければならないことを認識するために、地域博物館としての戦略を精査し、社会貢献に取り組みます。

【使命】

- (1)地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。
- (2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上につくします。
- (3)市民の生涯学習拠点としての安心・安全な施設を提供します。
- (4)博物館の社会的役割を意識し、地域に貢献します。

袖博は、地域の資料を収集整理し、市民の共有財産として次世代に継承するとともに、調査研究に基づいた常設展示の更新及び企画展・特別展を、市民のニーズも考慮しながら計画的に行います。また、地域の学習・知的交流の拠点として、さまざまな情報を発信するとともに、市民が博物館活動に参画しやすい体制を構築し、市民活動と一体となった博物館活動を推進して、地域に貢献します。さらに、生涯学習の拠点としての快適な学習環境を整えるため、施設の現状を的確に把握して維持管理をはかるとともに、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、以上の4点項

目を使命とします。

【活動目標】

(1)地域の資料を守る ―資料の収集と保管―

市史編さん事業で収集・管理してきた史料をはじめ、地域資料を継続的に収集整理し、市民の共有財産として適正な環境で保存管理します。また、地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、資料の情報・収集にあたります。

(2)地域を探り、発信する ―調査研究と成果活用―

地域資料の調査研究を推進して、その価値や歴史的な位置づけを明らかにし、その研究成果を市民の知的財産として公開・活用します。

(3)学習・知的交流の拠点になる―展示更新と情報発信―

地域資料を有効に活用した企画展や特別展を計画的に開催するとともに、市民のニーズを考慮した常設展示の更新計画を推進し、利用者の多様な学習意欲に応えます。また、地域の学習・知的交流の拠点として、さまざまな情報を発信するとともに、調べ学習や個人研究等の質問・相談に対応できる体制を整えます。

(4)地域のつながりを活かす―市民参画と地域連携―

市民学芸員・友の会員を中心に、市民が博物館活動に参画しやすい体制を構築し、学びの拠点として地域とつながる博物館を目指します。また、地域の学校と連携し、各種学習プログラムを開発して子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流を促進します。他の社会教育機関・博物館等や地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化し、地域連携による新たな価値や経済効果を発見・創造します。

(5)安心・安全な施設にする―施設の維持管理と来館者への配慮―

市民の快適な学習環境を整えるために定期的に施設の安全点検を行って施設の現状を把握し、メンテナンス・修繕・改修等の計画を立てて維持管理をはかるとともに、安全・安心で誰にも優しい施設をめざします。また、災害・事故に備え、博物館独自の危機管理マニュアルを整備し、定期的に防災訓練を行います。

(6)博物館の社会的役割を意識する―地域への貢献―

常に博物館として地域から求められる役割を意識し、周辺の施設や大学・研究機関等と連携して、立地を生かした魅力的な事業展開を図ります。周辺の遺跡や歴史文化遺産の把握や解明のため、調査等ができるボランティアを育成し、市民と一体

となった博物館活動を推進します。また、博物館の持つ収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献できるよう努めます。

(7)博物館職員の個性を生かし、能力を伸ばすー自己研鑽と研修参加ー

魅力ある博物館活動推進に向けて、最新の情報を入手し、各自の専門性をより高めるため、職員が研修に参加できる環境を整えるとともに、他機関の学芸員・研究者との交流や研究成果の収集に努め、博物館の業務に還元します。

4 関連法令

① 博物館法（抄）

（運営の状況に関する評価等）

第9条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

（運営の状況に関する情報の提供）

第10条 博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

② 公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準（抄）

（運営の状況に関する点検及び評価等）

第4条 博物館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の事業計画の達成状況その他の運営の状況について、自ら点検及び評価を行うよう努めるものとする。

2 博物館は、前項の点検及び評価のほか、当該博物館の運営体制の整備の状況に応じ、博物館協議会の活用その他の方法により、学校教育又は社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、当該博物館の事業に関して学識経験のある者、当該博物館の利用者、地域住民その他の者による評価を行うよう努めるものとする。

3 博物館は、前二項の点検及び評価の結果に基づき、当該博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

4 博物館は、第一項及び第二項の点検及び評価の結果並びに前項の措置の内容について、インターネットその他の高度情報通信ネットワーク（以下「インターネット等」という。）を活用すること等により、積極的に公表するよう努めるものとする。

議題1 資料「そではく35の展望」の運用に伴う使命・活動目標詳細修正案

【使命】

- (1)地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。
- (2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上につくします。
- (3)市民の生涯学習拠点としての安心・安全な施設を提供します。
- (4)[修正前]博物館としての独自性を追求します。→[修正後]博物館の社会的役割を意識し、地域に貢献します。

活動目標〔修正済〕	活動目標詳細〔修正案〕	あるべき姿〔修正済〕
<p>(修正後) (1)地域の資料を守る —資料の収集と保管—</p> <p>(修正前) (1)地域の資(史)料を守る —資(史)料の収集と保管—</p>	<p>(修正案) 市史編さん事業で収集・管理してきた史料をはじめ、地域資料を継続的に収集整理し、市民の共有財産として適正な環境で保存管理します。また、地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、資料の情報・収集にあたります。</p> <p>(修正前) 地域資(史)料を継続的に収集整理し、市民の共有財産として適正な環境で保存管理します。また、市史編さん事業で収集・管理してきた史料を適正に保存管理できる収蔵庫を確保します。</p>	<p>そではく35の展望① 1.収蔵するすべての資料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。</p> <p>そではく35の展望② 2.市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類が適正に管理され、活用できる環境が整っており、修復等が適性に行われている。</p> <p>そではく35の展望③ 3.地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたっている。</p>
<p>(修正後) (2)地域を探り、発信する —調査研究と成果活用—</p> <p>(修正前) (2) 地域を探り、発信する —調査研究の深化と革新—</p>	<p>(修正案) 地域資料の調査研究を推進して、その価値や歴史的な位置づけを明らかにし、その研究成果を市民の知的財産として公開・活用します。</p> <p>(修正前) 地域資(史)料の調査研究を推進し、新たな価値を発見、創造し、その研究成果が市民の知的財産として活用されるように公表します。</p>	<p>そではく35の展望④ 1. 袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。</p> <p>そではく35の展望⑤ 2. 市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。</p> <p>そではく35の展望⑥ 3.地域資料に関する情報が集積し、収蔵資料に関する情報が常に更新されている。</p> <p>そではく35の展望⑦ 4.地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。</p> <p>そではく35の展望⑧ 5.調査研究の成果が公開されている。</p> <p>そではく35の展望⑨ 6.高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができています。</p>

活動目標〔修正済〕	活動目標詳細〔修正案〕	あるべき姿〔修正済〕
<p>(修正後) (3) 学習・知的交流の拠点になる—展示更新と情報発信—</p> <p>(修正前) (3) 学習・知的交流の拠点になる—展示更新と市民参画—</p>	<p>(修正案) 地域資料を有効に活用した企画展や特別展を計画的に開催するとともに、市民のニーズを考慮した常設展示の更新計画を推進し、利用者の多様な学習意欲に応えます。また、地域の学習・知的交流の拠点として、さまざまな情報を発信するとともに、調べ学習や個人研究等の質問・相談に対応できる体制を整えます。</p> <p>(修正前) 市民のニーズに応じた常設展示の更新計画を推進し、資料を身近なものとして捉えることができるとともに、新たな発見や気づきがあるような展示をします。また、企画展や特別展を計画的に開催し、市民の多様な学習意欲に応えるとともに、市民が自らの意志で参画できるような展示を企画します。</p>	<p>そではく35の展望⑩ 1.市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。</p> <p>そではく35の展望⑪ 2.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。</p> <p>そではく35の展望⑫ 3.地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっている。</p> <p>そではく35の展望⑬ 4.常設展の更新や企画展などについても市民が自らの意志で参画している。</p> <p>そではく35の展望⑭ 5.情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。</p> <p>そではく35の展望⑮ 6.未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。</p> <p>そではく35の展望⑯ 7.講座内容が市民のニーズを反映したのものとなっている。</p> <p>そではく35の展望⑰ 8.さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。</p> <p>そではく35の展望⑱ 9.図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。</p> <p>そではく35の展望⑲ 10.利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。</p> <p>そではく35の展望⑳ 11.利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。</p>

活動目標〔修正済〕	活動目標詳細〔修正案〕	あるべき姿〔修正済〕
<p>(修正後) (4) 地域のつながりを活かすー市民参画と地域連携ー</p> <p>(修正前) (4) 地域のつながりを活かすー地域連携の展開ー</p>	<p>(修正案) 市民学芸員・友の会員を中心に、市民が博物館活動に参画しやすい体制を構築し、学びの拠点として地域とつながる博物館を目指します。また、地域の学校と連携し、各種学習プログラムを開発して子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流を促進します。他の社会教育機関・博物館等や地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化し、地域連携による新たな価値や経済効果を発見・創造します。</p> <p>(修正前) 市民の多様な学習を支援するために調査研究や展示成果を発表し、市民が新たな価値を発見、創造できるような生涯学習の拠点とします。また、小・中・高等学校との連携により多種・多様なプログラムを開発し利用促進することで、子どもたちにより良い教育環境を提供します。他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化し、地域の歴史や文化を深く理解する機会を推進します。</p>	<p>そではく35の展望^㉑ 1.市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。</p>
		<p>そではく35の展望^㉒ 2.市民学芸員・友の会員を中心に、博物館が学びの拠点となって地域とつながるシステムが構築されている。</p>
		<p>そではく35の展望^㉓ 3.地域連携によって新たな価値や経済効果が発見・創造され、その成果が発信されている。</p>
		<p>そではく35の展望^㉔ 4.地域の学校と連携し、子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流が促進されている。</p>
		<p>そではく35の展望^㉕ 5.他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。</p>
<p>(修正後) (5) 安心・安全な施設にするー施設の維持管理と来館者への配慮ー</p> <p>(修正前) (5) 安心・安全な施設にするー改善と維持管理ー</p>	<p>(修正案) 市民の快適な学習環境を整えるために定期的に施設の安全点検を行って現状を把握し、メンテナンス・修繕・改修等の計画を立てて維持管理をはかるとともに、安全・安心で誰にも優しい施設をめざします。また、災害・事故に備え、博物館独自の危機管理マニュアルを整備し、定期的に防災訓練を行います。</p> <p>(修正前) 市民の快適な学習環境を整えるために定期的に施設の安全点検を行うとともに、施設の現状を把握し、メンテナンス・修繕・改修等の計画を立てます。また、バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づき、安全・安心で誰にも優しい施設をめざします。</p>	<p>そではく35の展望^㉖ 1.管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理がはかられている。</p>
		<p>そではく35の展望^㉗ 2.包摂的な社会の実現のため、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。</p>
		<p>そではく35の展望^㉘ 3.危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。</p>

活動目標〔修正済〕	活動目標詳細〔修正案〕	あるべき姿〔修正済〕
<p>(修正後) (6)博物館の社会的役割を意識するー地域への貢献ー</p> <p>(修正前) (6)袖博らしさを追求するーマネジメント力の強化ー</p>	<p>(修正案) 常に博物館として地域から求められる役割を意識し、周辺の施設等や大学・研究機関等と連携して、立地生かした魅力的な事業展開を図ります。周辺の遺跡や歴史遺産の把握や解明のため、調査等ができるボランティアを育成し、市民活動と一体となった博物館活動を推進します。また、博物館の持つ収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献できるよう努めます。</p> <p>(修正前) 周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場である袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開を図ります。また、博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるために博物館で必要となる新たな研究者や専門家の人材確保の契機にします。</p>	<p>そではく35の展望²⁹</p> <p>1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、観光拠点でもある袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。</p> <p>そではく35の展望³⁰</p> <p>2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、魅力的な活動が継続されている。</p> <p>そではく35の展望³¹</p> <p>3.収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉の向上についても貢献する。</p>
<p>(新規) (7)博物館職員の個性を生かし、能力を伸ばすー自己研鑽と研修参加ー</p>	<p>魅力ある博物館活動推進のため、最新の情報を入手し、各自の専門性をより高めることを目的に、職員が研修に参加できる環境を整えると同時に、他機関の学芸員や研究者との交流や研究成果の発表の場についても積極的に活用します。</p>	<p>そではく35の展望³²</p> <p>1.館長は、研修等により最新の情報を収集し、博物館の振興と運営改善に努めている。</p> <p>そではく35の展望³³</p> <p>2.館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員を適正に配置し、研修等による資質向上に努めている。</p> <p>そではく35の展望³⁴</p> <p>3.他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会や、日頃の研究成果を発表する場が与えられている。</p> <p>そではく35の展望³⁵</p> <p>4.館の業務が適切に行われるように、学芸員以外の職員を配置し、研修等による資質向上に努めている。</p>

【参考】袖ヶ浦市郷土博物館の使命ーそではく30の展望ー 使命 の前文(修正前)

袖博は、地域の資(史)料を収集整理し、市民の共有財産として次世代に継承するとともに調査研究を推進し、市民のニーズに応じた常設展示の更新、企画展や特別展を計画的に行います。また、そこで得られた成果を市民・学校・社会教育機関・地域に発信し、連携することで地域文化の向上へ貢献します。さらに、生涯学習の拠点としての快適な学習環境を整えるため施設管理計画を立てるとともに、バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づき、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、次の4点項目を使命とします。

議題（２）今後の博物館事業の展望について

1 提案理由

昭和 57 年に開館した袖ヶ浦市郷土博物館は、昭和・平成・令和と 3 つの時代を越えて進化を続け、令和 4 年に開館 40 周年を迎えた。しかし 10 年後の開館 50 周年までには、現在在職する専門職員の多くが定年を迎え、世代交代は必至となる。やがて来る世代交代を円滑に進め、職員のワークライフバランスも考慮しながら、更なる魅力にあふれた事業を展開するには、事業の優先順位を的確に判断し、状況によっては事業のスクラップも検討していく必要がある。

以上により、次世代の更なる郷土博物館の発展に向け、現在展開中の事業を検証するとともに、これまでのそではく 30 の展望などの事業の点検と評価結果を踏まえた課題を抽出し、新たな事業の可能性について検討するものである。

2 博物館事業の現状・課題と今後の展望

博物館事業の現状と課題について検証し、それを基に今後の展開について、改善案を提示した。※【 】で記した箇所は、各事業の改善のポイントをキーワード的に示している。

(1) 教育普及事業（そではく 35 の展望②③④）

現状・年 1 回のミュージアム・フェスティバルと博物館講座「袖ヶ浦学」の他、夏の子供向けイベント「ジュニア学芸員体験」、「考古学講座」等を実施している。
・上総掘りは、映像記録の完成により技術の保存ができたことにより、技術の修得を希望する者に広く伝えることが可能になり、その活用に期待ができる。

課題・「袖ヶ浦学」は、近年は企画展関連等、他の事業との合同で開催することが多く、内容も袖ヶ浦以外の話が多くなるなど、本来のあり方と変わってきている。
・職員の研究成果発表の場としての講座も必要であり、全体的に講座のあり方を検討する時期に来ている。

展望【市民参画の促進、博物館力の鍛錬】

・市民学芸員や友の会員、上総掘り伝承研究会員を講師とした講座を開催する。

[R6]

・若手職員の経験値向上を目的とした、職員が講師となる軽易な講座を開催する。

[R6]

(2) 博学連携事業（そではく 35 の展望④⑩）

現状・小学校 3 年生・6 年生の校外学習支援とアウトリーチが主体となっている。

課題・学校との関係や体験の内容に定型化が進み、学校からのリクエストに対応し

た多様な実践例が少ない。

- ・博学連携実践事例集『そではくの使い方』を刊行してから20年が経過しており、内容も古くなっている。
- ・中学校との連携が少ない。
- ・資料等を貸し出すための物流システムの活用が図られていない。

展望【地域素材の活用と多様なアウトリーチの提案】

- ・各学校の地域別の特色を研究し、学校との対話や地域素材研究を進め、活動に取り入れる。〔R5〕
- ・学校の来館する回数を増やすのは難しいため、アウトリーチでできる学校別プランを提案していく。〔R5〕
- ・『新そではくの使い方』を作成する。〔R6・R7〕
- ・中学校を主体とした山野貝塚学習プログラムを確立し、実践する。〔R5〕

(3) 展示更新推進事業（そではく 35 の展望⑩⑪⑬⑭）

現状・特別展・企画展とロビー等で開催するミニ展示、常設展示の展示替えが事業の中心。博物館の存在感を最も強くアピールできる事業であり、今後も原則年間2回の企画展は継続する方向である。

- ・常設展示の展示替えは年1回以上実施している。

課題・常設展示の展示替えは、資料入れ替えだけでは目新しさがないため、大きく印象を変える展示替え方法について検討していく必要がある。

- ・アクアラインなるほど館の新たな活用方法を検討していく必要がある。

展望【常設展示の強化】

- ・寄贈資料の更なる活用により、常設展示を大幅に更新する。〔R6〕
- ・大規模改修に合わせた展示更新計画を作成する。〔R5〕
- ・ハンズオンなど来館者に動きが出る展示や来館者参加型の展示を導入する。〔R7〕

(4) 地域資料管理活用事業（そではく 35 の展望④⑥）

現状・収蔵資料の保存・管理・整理が事業の主体であり、その一環として資料燻蒸・修復等を行う。

- ・資料活用と情報の集約、研究成果公開の手段の1つとして、『袖ヶ浦市史研究』を刊行している。
- ・埋蔵文化財写真のデジタル化を進めている。

課題・かつての市史編さん成果還元事業と情報提供事業を合わせ持った事業内容となっているが、情報提供面はやや手薄となっている。

- ・資料のデジタル化、デジタルアーカイブの公開等をさらに進める必要がある。

展望【情報提供機能の強化】

- ・収蔵資料デジタル化を促進する。〔R5〕
- ・ホームページでの資料紹介を充実させる。〔R5〕
- ・デジタルアーカイブの公開と検索できる収蔵資料データベースを導入する。〔R7〕

(5)市民学芸員協働事業（そではく 35 の展望⑳㉓㉔）

現状・市民学芸員コーディネーターを配置し、さまざまな市民学芸員活動を支援している。

- ・近年は通年で養成講座を開催し、毎年新規の市民学芸員が加入している。

課題・養成講座を修了後、グループに所属しなかった市民学芸員の活動支援が必要である。

- ・メンバーの高齢化も進み、近い将来での世代交代は免れない。

展望【定番からの脱出】

- ・各人が希望する活動内容を調査し、新たな活動メニューを開発する。〔R5〕
- ・研究会やサークル的な新規グループを提案する。〔R5〕
- ・中高校生の課外活動として、「そではく部」を提案する。〔R5〕

年度		R5	R6	R7	R8	R9(開館45周年)	課題・懸案事項等	
教育普及事業	ミュージアム・フェスティバル	年1回開催	継続			開館45周年記念	友の会・市民学芸員といった事業の担い手が不足してきている。開催日数を減らす等実施方法に検討が必要。	
	講座 袖ヶ浦学	年5回開催	継続 (あり方について検討)				他の事業との合同で実施することが多いが、事業に関係なく館職員の研究発表の場として活用する必要もあり。	
	その他講座		考古学講座(弥生時代) 新たな講座の検討・企画 (若手職員主体の講座等)	新たな講座の実施 (若手職員主体の講座等)				
	友の会関係		もっと知りたい講座					
	上総掘り関係		【国庫補助事業】 講演会開催・伝承用印刷物作成・映像記録作成	上総掘り伝承研究会員による上総掘り講座				
	その他イベント		ジュニア学芸員体験				万葉植物園等屋外施設のさらなる活用	
博学連携事業	校外学習支援等	体験学習支援 学習相談対応 資料・図書貸出	継続 地域資料研究を進め、学校へ提示	『新そではくの使い方』作成				
	出前授業・展示	アウトリーチ 出前展示の実施	継続 学校別アウトリーチプランの提示					
	その他	山野貝塚学習プログラム	実践					
展示更新推進事業	特別展・企画展	特別展・企画展年 2回開催(原則5月 ~7月、10月~12 月の2回)	企画展Ⅰ「井出先生の写真館」(歴史・近 現代・戦争) 企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」(自然・生物) a	企画展Ⅰc 企画展Ⅱb	企画展Ⅰa 企画展Ⅱc	企画展Ⅰb 企画展Ⅱa	国指定10周年記念展示 開館45周年記念特別展	a・b・cは、職員の担当ローテーション例。 企画展Ⅰは館蔵資料を中心とした小規模 なものに限られる。
	常設展示	R4は中世	展示更新計画検討	山野貝塚展示室展示替え 展示資料の大幅な更新	来館者参加型展示の導入			資料の入れ替えだけでは限界。
	その他の展示	ロビー展示・トピッ クス展等	時勢に合わせて実施	山野貝塚発掘報告展(R5年度報告書刊行 に伴う展示)				アクアラインなるほど館の活用
	旧進藤家住宅		友の会・市民学芸員による活用(盆栽展・ 五月人形展示・十五夜飾り・雛人形展示)					お飾りの維持。メンテナンスボランティアの 活用
	万葉植物園	QRコード設置 解説会	QRコード設置完了 実施・継続					日常的に手入れができる人材の確保。
地域資料管理 活用事業	資料管理活用	・収蔵資料保存管理 活用 ・資料燻蒸 ・環境調査委託	継続					
	史料修復		奈良輪漁組文書					修復資料の選定(奈良輪漁組以外)
	情報提供・デジタル 化	収蔵資料デジタル 化・ホームページでの 資料公開	継続 (内容充実・強化) データベースとデジタルアーカイブの公開 準備	公開				
	『袖ヶ浦市史研究』		第22号原稿募集	第22号刊行	第23号原稿募集	第23号刊行	第24号原稿募集(開館45周年号)	寄稿する研究者の開拓。 職員の執筆の促進
市民学芸員協 働事業	市民学芸員活動	体験学習支援 自主企画展企画 ほか ・万葉グループ第 3土曜日午前活動 (万葉植物園) ・葉月の会 第3 土曜日午後活動 (体験学習室)	継続 希望する活動内容の調査とそれに伴う新 たなメニュー開発 新規グループの提案、活動開始 「そではく部」の提案、募集、活動開始					世代交代。 グループに属さないメンバーの活動の場 提供。
	市民学芸員イベント		こどもの日イベント(万葉植物園使用)					
	市民学芸員養成講 座	年11回	継続					
その他の事業	山野貝塚活用	「行ってみようマップ」を活用した周辺散策会	常設展示室展示替え			国指定10周年記念展示	『山野貝塚保存活用計画書』の活用 レンタサイクル導入	